

FUKUSHIMA no KOME

DATA LIBRARY
2023

福島県産米データライブラリー 2023



問い合わせ

福島県水田畑作課
福島県福島市杉妻町2-16 TEL.024-521-7360
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/>



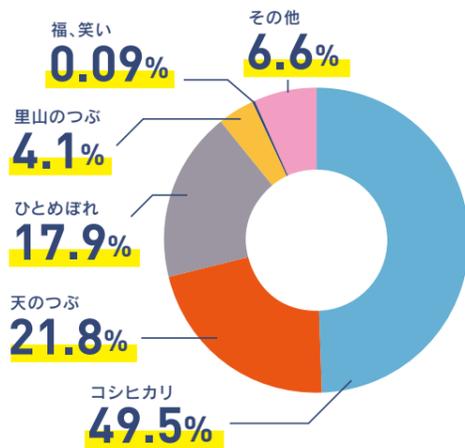
01 Data

ふくしまの米に関するデータとギャラリー

福島県は全国で3番目に広い面積を有しています。中通り、浜通り、会津と3つの地域に分けられ、それぞれの地域において地形や気候が異なり、各地域の特色を生かした米作りが行われています。それらは収穫量や一等米比率から分かる品質の安定性につながっており、ふくしま米は市場が求める量と質に十分に答えることができます。

ここでは、ふくしま米や県内の気候の特徴について、様々なデータとしてご紹介します。

令和4年産米の品種別作付割合



令和4年産米の品種別作付割合(うるち)は、高い方から「コシヒカリ」49.5%、「天のつぶ」21.8%、「ひとめぼれ」17.9%、「里山のつぶ」4.1%の順となっています。県オリジナル品種「天のつぶ」、「里山のつぶ」の割合は合計で25.9%となり前年より0.3%増え、年々作付面積が増加しています。



主食用米 作付面積 全国7位

※令和4年産

福島県は、全国有数の米どころであり、平成22年の主食用米の作付面積79,400haで全国4位。その後、東日本大震災により浜通り地方での作付が大きく減少しましたが、令和4年産では51,900haまで回復しています。(農林水産省 作況調査より)

安定した収量

10a当たり収量:549kg

全国7位

※令和4年産

福島県の令和4年産米の10aあたり収量は549kgで全国7位となっています。全国平均では作況指数が100を下回る年も福島県産米は安定的な生産ができており、高い品質の米を安定して市場に提供することにつながっています。(農林水産省 作況調査より)

安定した品質

1等米比率(5か年平均)

92.1%

※平成29年産~令和3年産

全国的に登熟期の高温障害による品質低下(白未熟等)で1等米比率の低下がみられる中、ふくしまの米は、毎年、安定した品質の良い米を消費者へ届けています。(農林水産省 県農産物検査結果より)

福島県は多種多様なお米の産地で「全国有数の米どころ」と呼ばれるほど稲作が盛んに行われています。生産量の多い「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」などの他にも、福島県の気候に合わせた県のオリジナルブランド米も積極的に生産されています。

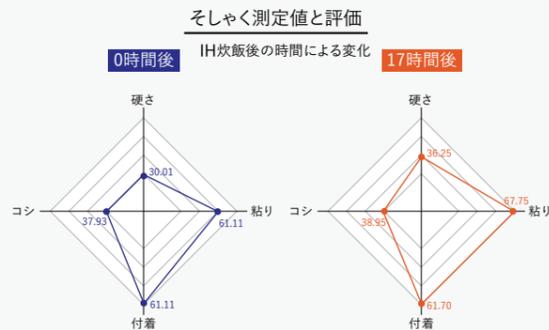


日本一の米をつくりたい

福、笑い

NEW

ふくしま米の中でトップブランドに位置付けられ、「香りが立ち、強い甘みを持ちながら、ふんわり柔らかく炊きあがる」という、これまでにない個性的な食感・食味が持ち味のお米です。令和3年に本格的な生産・販売が開始されました。



炊きたてごはん

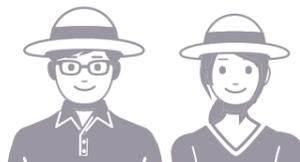
お米本来の味わいを楽しめる、おにぎりや和食との相性が抜群です。炊き方にもこだわって、食卓の主役級の美味さと贅沢な時間をお楽しみください。



主食用米 収穫量 全国7位

※令和4年産

平成22年度産の主食用米の収穫量は43万9,100tで全国4位でしたが、東日本大震災により大きく減少しました。令和4年産の収穫量は28万4,900tまで回復し、全国7位となっています。(農林水産省 作況調査より)



安全な米づくり

GAP認証農場数

198件

※令和4年3月31日現在

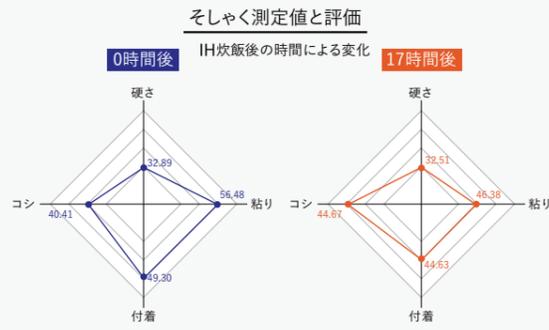
福島県はGAP日本一を目指して、安全と品質の太鼓判となるGAP認証の取得を進めています。米での認証農場数は令和4年3月31日現在で198農場となっています。穀類でASIAGAP、JGAPに取り組む農場数は日本一です。(令和4年3月31日現在、福島県調べ)



天の恵のうまい米

天のつぶ

天に向かってまっすぐ伸びる稲の力強さをイメージして命名。粒ぞろいが良く、光沢があり、しっかりとした食感が魅力で、冷めても美味しい品種です。県内の平坦地を中心に生育が拡大しています。



丼物・お弁当

粒がしっかりしており、油や調味料との相性が良いので、炒飯や丼物にもおすすめです。冷めてもおいしく、お弁当にも向いています。



充実した米粒となる条件

気温の日較差

9.7℃

[会津若松市]

※8月~9月、平成30年~令和4年の5か年平均



気温の昼夜較差(日較差)が大きいと、夜間のデンプンの消費が少なく米粒の充実が良くなるため、収量や品質に良いとされています。県内主要都市と全国県庁所在地における登熟期(8月~9月)の気温の日較差(過去5か年平均)を比較した結果、会津若松市が最も大きく、9.7℃もありました。(気象庁 過去の気象データより)

主要米産地の気温日較差の比較

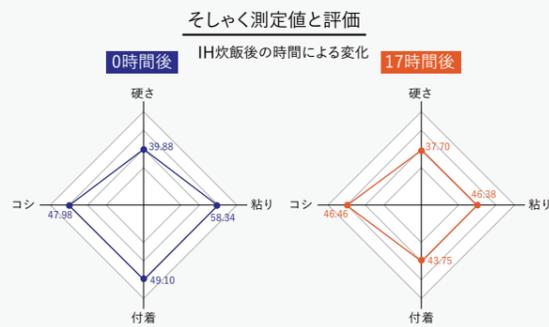
会津若松市	9.8℃
福島市	8.4℃
青森市	8.4℃
秋田市	8.0℃
盛岡市	8.7℃
山形市	9.4℃
仙台市	7.0℃
新潟市	7.5℃



つぶがしっかり

里山のつぶ

冷涼な里山で広く栽培される品種になってほしいと願い命名。米粒が大きく、食べたときの歯ごたえと、適度な粘りが秀逸です。県内の中山間地の主力品種として、生産されています。



炊き込みごはん・リゾット

口に入れた時にしっかりと歯ごたえと適度な粘りがあります。粒も大きく、調味料が染み込みやすいので、調理・加工する料理におすすめです。



春

耕起・代かき

●作業の目的

水田を深く掘り起こし、土壌を細かく粉砕する作業を耕起といいます。また、耕起後には場に水を入れ、土をやわらかく、平らにする作業を代かきといいます。これらの作業により、ほ場の均平を整え、水持ちを良くし、雑草の発生を抑えるなどの効果があります。

●県内の一般的な作業時期

4月上旬～5月上旬

●福島県内で導入されている技術の例

〈レーザーレベラー〉

レーザーレベラーはほ場外の送信機から発信される水平レーザーを、整地を行うトラクターに装着された受信機で受信し、均平板を常に一定の高さに維持し続けることにより精密な均平化を行うための装置です。一見平らな様に見えても、作土層が均平でなければ、時間の経過とともに、部分的な沈下が起き易く、容易にほ場の均平は失われ、水深が不均一になり、初期生育にムラが生じる原因や、除草効果にバラツキが生じる原因になります。

育苗、田植え

●作業の目的

田植えの前に、あらかじめ苗を一定程度育てるのが育苗です。県内では育苗箱に土を入れ、ビニールハウスの中などで管理する箱育苗が多いです。また一部では、省力のため、パイプハウス内にビニール等を用いて簡易水槽(プール)を作り、水を入れたままの状態で行うプール育苗が行われています。生育が揃った苗を機械移植(田植え)することで、ほ場内における生育ムラの軽減につながります。また、殺菌・殺虫剤の育苗箱施薬や除草剤の散布装置を田植機に装着して田植えと同時に農薬散布方法もあり、これらによって、作業の効率化につながります。

●県内の一般的な 作業時期育

育苗：4月上旬～5月中旬

田植え：5月上旬～5月下旬

●福島県内で導入されている技術の例

〈直進アシスト田植機〉

田植機に搭載されたGPSにより直進補助を行うことで、均一な植付密度を確保し、土壌から吸収する養分を均一化させることができ、結果として品質が均一な米になります。



直播栽培

●作業の目的

県内では田植えだけでなく、種籾を直接ほ場にまく直播栽培も行われています。代かき後に行う湛水直播、耕起された畑状態の土壌に播種する乾田直播があります。福島県で行われる直播栽培は、湛水直播が一般的です。一般的には田植機後部のアタッチメントを直播の機器に替えて行います。直播栽培によって育苗や田植えに係る労力やコストを大幅に省くことができ、生産者の負担を軽減させることができます。

●県内の一般的な作業時期

4月下旬～5月上旬

●福島県内で導入されている技術の例

〈ドローンによる直播栽培〉

播種作業をドローンにより行うことで、直播作業にかかる時間をより少なくすることができます。実施するためには十分な操縦技術が必要なため、ドローンの講習を受けることが推奨されます。



ふくしまの米ができるまでの流れについて紹介いたします。

福島県は、奥羽山脈と阿武隈高地の2つの山系により、太平洋側の特性を持ち一年を通じて穏やかな気候の「浜通り」、太平洋側に近い気候の「中通り」、日本海側の特性を持ち、積雪の多い気候の「会津」の3つの地域に分けられます。これらの地域において、福島県の水稲奨励品種15品種(うるち米12品種、もち米3品種)を中心に作付が行われ、地域の気象や標高、土質、さらには地域で培ってきた稲作文化により、それぞれの地域で特色ある生産が行われています。

育苗、田植え

●福島県内で導入されている技術の例

〈可変側条施肥田植機〉

田植機の前方についたセンサーにより、土の養分を計測し、田植機後方から出る肥料の量を調節し、土の養分がほ場内で均一になるように、肥料をまくことができる田植機です。これにより、田植えと肥料散布を同時に行うことができ、また肥料ムラを解消することができるため、良質かつ均一な品質の米を作ることができます。



直播栽培

●福島県内で導入されている技術

〈無コーティング種子代かき同時直播〉

県内で試験的に導入された技術です。トラクターに代かきのロータリーと直播用の播種機器をつけて、代かきの仕上げと播種作業を同時に行うものです。ドローンのように複数人での作業が不要で、また機械がトラクターへのアタッチメントの追加のみのため大きな投資が不要となるのが特徴です。さらに、浅い土中に播種するため、鉄材等によるコーティングなしで播種することができます。



夏

肥培管理

●作業の目的

夏は天候に応じて適切な稲の生育量を確保するための管理作業が中心となります。具体的には水管理、肥料の追加散布、雑草や病害虫の被害を防ぐ薬剤散布や畦畔の草刈りなどです。水管理は、稲の生育ステージや生産量によって、水田の水量を調節する作業です。重要な水管理の一つに「中干し」があり、本県では6月下旬～7月上旬頃に水を断つ時期があります。中干しの主な効果は以下の3つです。

①穂を付けない無効分けつの抑制 → 充実した茎の確保

②根へ酸素を供給 → 根を健全に保つ

③水田の有害物質の発生を抑制 → 稲の養分吸収を助ける
この時期の追肥は、米の粒数を増やしたり、粒を大きくしたりと、収量を向上させることを目的としています。

●県内の一般的な作業時期

田植え～8月下旬

●福島県内で導入されている技術の例

〈無人ヘリ、ドローンによる防除〉

無人ヘリやドローンによる農薬散布も行われており、大幅に労力の削減ができます。その分他の作業に時間を活用することができ、より丁寧な肥培管理が可能となります。夏期は気温の高い時間を避け、朝夕の限られた時間を中心に作業を行うこととなりますが、雑草などの生長期も著しい時期です。大規模農家などでは広大な農地を管理することになるため、効率的な作業が求められ、先進的な技術により作業効率を上げ、より丁寧な管理に努めています。



●福島県内で導入されている技術の例

〈自動水管理システム〉

先進的な取組として、水管理を容易にする自動水管理システムが導入されているほ場があります。これは自動で給排水口を開閉するため、一つ一つのほ場を見回る労力が軽減されます。

生育診断

●県内の一般的な作業時期

6月下旬～8月下旬

●福島県内で導入されている技術の例

〈ドローンによる生育診断〉

ドローンにより上空から水田を撮影し、稲の生育を分析するリモートセンシングも取り入れられており、ほ場内の生育量を地図上に可視化して表すことができます。このリモートセンシングの結果を受けて、水田一筆の中でも生育の旺盛なところと劣るところで、施肥量を変える可変追肥を行うことで、良食味かつ均一な米の品質確保につながります。



秋

収穫・乾燥・調製

●作業の目的

乾燥は、米の品質低下や腐敗を防止するなど保存性を向上させ、また粳すりの際に米に傷をつきにくくする効果があります。

調製は一定の基準で同一品質に揃える作業を指し、粳すりや選別など玄米までにする工程をいいます。

●県内の一般的な作業時期

収穫：9月中旬～10月中旬
乾燥・調製：9月中旬～10月下旬

●福島県内で導入されている技術の例

〈収量食味コンバイン〉

県内では先進技術として収量食味コンバインが導入されています。この機能は稲刈りと同時に水田一筆の中でも収穫地点ごとの収量と食味のデータが測定できます。これによって翌年度以降の施肥設計等に役立てることができます。



〈カントリーエレベーター〉

乾燥調製作業を大規模に行い、粳のまま貯蔵できる施設がカントリーエレベーターです。複数の生産者の米を1カ所に集め、乾燥・調製・貯蔵を行うことで、生産者のコスト削減を図るとともに、同じ工程で一括処理をすることにより品質のバラツキを防ぎます。



色彩選別機

斑点米などの着色粒や、石等の異物、異種穀粒などを取り除き、出荷される玄米の品質を高めます。



03 Interview インタビュー

卒業後は親元で就農しようと考えています。

自分が作ったお米を消費者に安心して食べてもらうために、在学中にJGAPの指導員資格を取得しました。安全管理を徹底し、品質を保ち消費者からの信用を得ることで、販路拡大につながっていくと思います。そのため、第三者からの評価は必要で、これからの農業にGAP認証が必要になってくるのではないのでしょうか。将来は私達、若手からGAP認証を広めていけるようにGAPの認証も取得したいと考えています。

福島県農業総合センター農業短期大学校
水田経営学科2年
※令和3年度インタビュー時

石井源土 さん



品質を保つための
第三者からの評価

それぞれの
お米の良さ



普段からお取引しているお客様からは、「会津のコシヒカリを調達したい」とか「相馬の天のつぶを調達したい」などのご用命をいただいておりますが、それ以外にも漠然と「福島県産のお米を調達したいので、何かおススメはありませんか」という機会も多いです。福島県は浜通り・中通り・会津という3つの異なる気候風土があって、生産しているお米の品種も多岐にわたるのが特徴です。その選択肢の豊富さが福島県の強みだと思っています。

JA 全農福島
米穀部 米穀販売課 課長代理
※令和3年度インタビュー時

相澤 司 さん

会社が大きくなり管理する農地が増えて、人の力だけでは、農地を管理することが難しくなり、収量コンバインなどの先進技術などを活用するようになりました。生育診断や収穫調査を行い、その農地の生育状況や米のタンパク含有量などをデータ化することで、農地ごとに細かく品質管理ができています。感覚で作業をするのではなく、データを基に収穫時期や翌年の作付計画を立てることができるので、安定した品質のお米を提供することができています。

株式会社 若宮ばくさく 内海淳一 さん
※令和3年度インタビュー時



先進技術を活用した
生産の効率化

お米ができるまで

月/旬	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
【生育ステージ】 (会津) コシヒカリ(中通り) (浜通り)				育苗期	移植期		分けつ期 (莖数の増加)			幼穂形成期 (穂ができる)	減数分裂期		出穂期 8/5頃 8/12頃 8/9頃	登熟期 (デンプンが蓄積)	成熟期 9/17頃									
【主な作業の時期】				播種		田植え																		収穫・乾燥・調製
				育苗管理		除草剤散布																		



米づくり
に
適した地



毎日食べても飽きない食味が福島県産米の魅力。ふっくらとして粘りもあるし、また甘みも旨味もあり和食にぴったりのお米です。奈良時代の福島の遺跡から出土された木簡には、5種類のお米の品種が確認できるほど歴史があります。その時代ならモチとうちの2種類でいいのに、福島では5種類も栽培していました。昔から気候風土もいし米作りに最適な土地なんです。受け継がれてきた生産者の知恵と熱意が伝わる福島県産米の美味しさと品質をぜひ試してほしいですね。

五ツ星お米マイスター 金子真人 さん
※令和3年度インタビュー時

EC販売の強みとして、遠方やご自宅に居ながらも福島県産米を気軽に手に入れることができること、福島県産米は浜中会津の3地方、品種によって違いがあり、お客さまそれぞれのニーズに沿ったご提案をできることが挙げられます。また、EC販売を中心に行なっているため、まだ食べたことがないお客様にも購入いただけるよう、首都圏をはじめ、他県の商業施設等で試食イベントを開き、実際に福島のお米の美味しさや品質の良さを体感していただく機会を創出しております。

株式会社スペースワン
通販事業部 リーダー 根本めぐみ さん



福島県産米を
気軽に県外の食卓へ